

報告事例番号

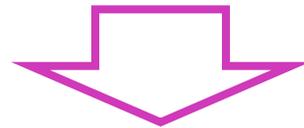
露地ナス産地の生産安定

計画年度：平成30～令和2年

西部農業事務所普及指導課

課題設定の背景及び理由

- ・平成24年度より、5JA担当者、関係者が連携し「群馬県西部地域の露地ナス」として地域の実状にあわせた振興を開始
- ・高崎安中地域では毎年10名前後の新規栽培者
- ・作付面積・栽培者が年々増加し、露地ナスは各産地において経営の柱となる品目
 - H29高崎安中地域の栽培状況
(栽培面積:9.9ha、生産者:115戸)
- ・平成28・29年度は県の夏秋なす出荷量(7-11月期)全国一



関係機関との連携強化 新規栽培者の掘り起こしと定着支援
生産性向上 露地ナスの経営ならびに生産安定

主な推進課題と解決手法

1 西部地域5JA露地ナス推進体制の連携強化

- ・5JA担当者、関係者による推進会議、
現地研修会を開催

【支援対象：各関係機関】

2 新規栽培者の掘り起こしと定着支援

- ・広報誌等による栽培説明会と栽培開始に向けた支援
- ・新規栽培者に対する重点支援

【支援対象：新規栽培希望者、新規栽培者】

3 露地ナス生産性向上

- ・肥培管理や整枝方法等の改善(研修会、検討会)
- ・GAP手法による栽培改善等

【支援対象:高崎安中地域3JA生産者】

4 露地ナスの経営ならびに生産安定

- ・補完作物の栽培技術向上による複合経営の安定
- ・土壌病害対策とIPM技術の定着

【支援対象:高崎安中地域3JA生産者】

到達目標(目標年次の姿)

表1 H30-32 普及計画における目標年次の姿(ビジョン)

目 標	H29	H30		H31		H32	
	(計画策定時)	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)
新規栽培者数(戸)	11	8		8		8	
3JA 露地ナス出荷量(t)	711	720		730		740	
IPM 技術導入農家戸数 (マルチ・ネット作付)(戸)	16	21		26		30	

活動経過及び結果

1 西部地域5JA露地ナス推進体制の連携強化

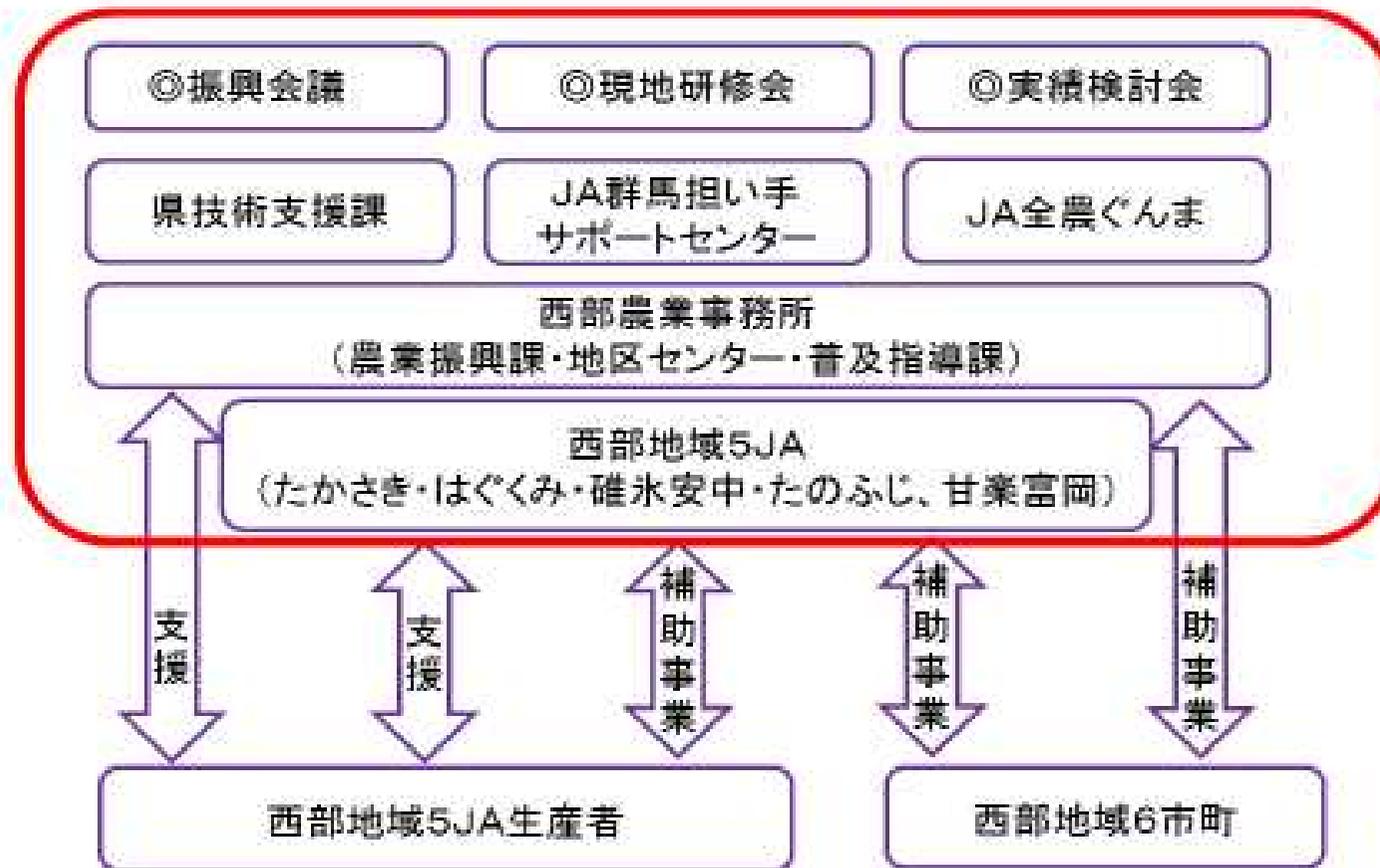


図1 西部地域5JA露地ナス振興体制図

【活動経過】

- ・推進会議

H30.5.9 高崎合同庁舎 出席者:20名

- ・指導者向け研修会(2回開催)

H30.7.27 JA碓氷安中 出席者:19名

H30.8.29 JAたのふじ 出席者:25名

- ・実績検討会

H31.1.24 高崎合同庁舎 出席者:15名



写真1 指導者向け研修会



写真2 実績検討会

- ・各検討会ではJAより、活動実績、課題について説明(抜粋)

7～9月(活動実績・課題)

活動実績

- ・7/20 第4回現地研修会
- ・8/23 第5回現地研修会
- ・9/中 現地栽培説明会(山間部)

課題

- ・標高差(約100m～600m)があるため、統一的な防除指導には限界がある。TACを中心とした巡回の中で生産者に合った防除指導を行う。
- ・天候回復後、ばれいしょ収穫後、テントウムシダマシ、タバコガの害虫が目立ってきた。
- ・基本的に病虫害の発生としては特段問題なく順調に推移している。7/下より弱～中程度の更新剪定を開始した。その他特記事項として、灌水の必要性、追肥遅れ、ダニ類発生等について注意喚起を行う。

【活動結果】

・推進体制の強化により西部地域の全体目標を達成

表2 農業農村振興計画2016-2019 西部地域重点プロジェクト夏秋なす目標指標

目標指標	単位	平成26年 基準年数値	平成30年		令和元年		
			実績値	計画値	実績値	計画値 (最終年)	
西部5JA露地な す出荷量	t	3,974	4,733	4,132		4,740 (4,180)	数値目標 上段:実績・計画値 下段:達成率・判定評価 達成率 = 実績値 / 計画値 令和元年の出荷量は上方 修正()内は当初目標値
			115%	A			
IPM技術導入農 家数(マリーゴー ルド作付)	戸	25	89	85		100	
			105%	A			

2 新規栽培者の掘り起こしと定着支援

【活動経過】

- ・新規栽培希望者向け説明会(5回)
- ・新規栽培者向け現地研修会(7回)

【活動結果】

- ・7名が新規に栽培を開始



写真3 栽培希望者説明会



写真4 新規栽培者研修会

3 露地ナス生産性向上

【活動経過】

- ・整枝管理指導研修会(11回)
- ・GAPシート記入説明会(高崎安中地域3JAで実施)
- ・時期別チェックリストで作業確認(年間11回実施)

【活動結果】

- ・3JA露地ナス出荷量(711→770tへ大幅増加)



写真5 整枝管理研修会



写真6 チェックリストで確認

平成30年度版 露地ナス栽培管理チェックシート
 ~ 商品づくりのための取り組み (クレームゼロを目指して!) ~

各管理作業項目にしたがって行えた作業には、 に「レ印」でチェックしましょう!

各作業	チェック	目的	チェック内容
定植準備 ~ 定植		食・環	・土壌診断に基づいて施肥設計をしましたか。
		環	・マルチは定植の7~10日前までに張って、地温を上げてありますか。
		環	・健全な定植苗を準備し、適期に定植ができましたか。
		環	・深植えをしていませんか。
定植直後 ~ 生育初期		食・環	・定植後のトンネル被覆による保温はしましたか。
		食・環	・V字仕立て用の支柱は早めに準備ができましたか。
		食・環	・ほ場の周囲に防風ネットを張り、防風対策をしましたか。
整枝・剪定		食・環	・基本となる「V字4本仕立て」のための枝の整理はできましたか。
		食・環	・低段側枝から順次摘心、切り戻し作業はできていますか。
		食・環	・V字仕立ての谷間の枝の整理はできましたか。
		食・環	・誘引紐やネットに誘引し「スレ果」対策をしていますか。

目的: 食: 食品安全、環: 環境保全、労: 労働安全

4 露地ナスの経営ならびに生産安定

【活動経過】

- ・補完作物講習会(ネギ、ホウレンソウ、ブロッコリー等 9品目)
- ・土壌病害対策講習会(3回)
- ・IPM技術研修会(10回)

【活動結果】

- ・補完作物導入主要体系(3体系)
→ **ネギ類、ホウレンソウ、ブロッコリー**
- ・土壌病害対策実施農家
(**土壌消毒実施農家2→12戸へ増加**)
- ・IPM技術導入農家戸数
(**マリーゴールド作付農家が16→21戸へ増加**)

到達目標実績(目標年次の姿)

表3 H30-R2普及計画における目標年次の姿(ビジョン・実績)

目標	年次	H29	H30		R1		R2	
	(現状)	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)	(目標)	(実績)	
新規栽培者数(戸)	11	8	7	8		8		
3JA露地ナス出荷量(t)	711	720	770	770 [730]		770 [740]		
IPM技術導入農家戸数 (マルチ・畝作付)(戸)	16	21	21	26		30		

3JA露地ナス出荷量はR1以降目標を上方修正 []内は当初目標値

残された課題と今後の対応

西部地域5JA露地ナス推進体制の連携強化

- ・平成24年度からの取り組みにより成果
(普及計画、農業農村振興計画の指標を達成)
- 各産地(JA)ごとに取り組みを継続する

新規栽培者の掘り起こしと定着支援

- ・栽培説明会の実施と導入推進により新規栽培者を確保
- 栽培説明会の継続と就農イベント等への参加
- 農林大学校ぐんま農業実践学校(就農準備校)との連携

露地ナス生産性向上

- ・栽培講習会、現地研修、実績検討会により反収が向上し
全体収量も増加(過去最高の販売実績)

→経験の浅い生産者への重点支援

露地ナスの経営ならびに生産安定

- ・補完作物は産地(JA)により特徴

→JA別に補完作物の生産支援

- ・土壌病害による収量低下

→緑肥作物導入による輪作の推進

→土壌消毒の委託を希望する生産者への地域体制づくり